



高知県におけるHIV感染症診療

高知大学医学部附属病院

藤村洋子



高知県の特徴

- 広い面積（四国の 2/5） 大部分は山間部
- 少ない人口（80万以下） 2/3が高知市近辺
- 多くの病院が高知市に集中、医療過疎の存在
（3時間半かけて通院していたHIV感染者）

高知県民

- 自由、開放的
- 妊娠中絶・STDが多い（昨年からの梅毒の流行）
→今後HIV感染が広がる可能性



高知県の拠点病院

西：県立幡多けんみん病院（宿毛市）

中央（高知市、南国市）：

高知大病院、高知医療センター、国立高知病院

東：県立安芸病院（安芸市）

高知大病院は今年3月に中核拠点病院



高知県の患者・感染者数

- エイズ動向委員会の結果報告による
- HIV感染者 17名 AIDS患者 9名
- 病院の所在地（高知出身東京在住は入らない）
- いきなりエイズで死亡してしまった
- 保健所⇒拠点病院

高知大病院における24名の患者・感染者

男性23名、女性1名

日本人23名、外国人1名

AIDS患者11名(2名は死亡)、HIV感染者13名

当院で感染が判明7名、保健所6名、献血1名

他の拠点病院5名(県中1、市民1、医療センター3)、

拠点病院以外2名、他県より転居3名

現在20名の患者・感染者が外来通院中(2名転出)

そのうち13名が治療中

血友病・二次感染5名 性感染19名

95 1、97 1、99 1、01 2、03 1、04 3、05 2、06 6、07 2



院内の協力体制

外来：総合診療部

入院：血液・呼吸器内科

病院長

医師：眼科、産婦人科

看護師、助産師：数名

検査技師

カウンセラー

が熱心



中核拠点病院の看護師として

- 4月から専任看護師
- 総合診療部外来で
- 医師の診察に同席
- 患者さんとコミュニケーションを深める
- 歩み始めたところ



医療ネットワーク構想

- 抗体検査 全病院
- 急性期(AIDSの治療) 拠点病院
- 長期的なフォローアップ 中核拠点病院
- 困難例 ブロック拠点病院



今後の取り組み

- 普及啓発および教育
 高校で講義、出版、放送
 - 検査の普及
 医師会、講演会
 - 本院の充実
 院内研修会
 - 県内医療体制整備
 連絡協議会
- 感染予防
- 早期発見
- 長期生存
- ネットワークづくり

壊れる性(上)～知っていますか愛すること～



高知での性感染症の拡大やHIV・エイズ問題の実像を
医療最前のドクターらが語り、その実態に迫る対談集

知識のないセックス！意識に大きな個人差
減らぬ10代の人工中絶 避妊知らずに性交
「知らせないこと」は大人の責任 「どう行動するか」は子どもの責任
どうする性教育 だれを尊敬して生きる？
低い「自尊感情」 誤った情報提供
男子の性教育充実を！ 「性習慣病」に陥るな
男の子が「子どもを産みたい」 急に増えた異質な相談
幅広い梅毒患者の年代 迫るHIV感染の恐怖
遅れたHIVのリスク認識 見えない本当の実態
ニーズに合わせた情報を 気になる子宮頸がん
「それはだれの人生？彼？彼女？いいえ、あなたの人生！」